

| | | | | | | | |
|-------------------|--|--|-----------|------------|-----------|-------------|---|
| 科目ナンバー | SEM-3-003-ky | | | 科目名 | 課題演習Ⅰ(野口) | | |
| 教員名 | 野口 華世 | | | 開講年度学期 | 2020年度 前期 | 単位数 | 2 |
| 概要 | ・歴史学(日本史)を中心に文化や民俗・考古などについて学ぶ演習である。 ・前期は主に地域社会からみる歴史・文化を学ぶ。 ・群馬県などの地域社会の歴史や文化を、日本全体の歴史や文化と関連づけて学ぶ。 ・それらを通して、群馬県のような地域社会の現在やこれからの課題について考えていく。 ・資・史料の大切さ、研究上における利用法(根拠・裏付けとなる)を学ぶ。 ・歴史の現場(史跡)に実際に赴く見学会も随時実施する。史跡に関わっている専門家などに依頼し、直接説明してもらう。現地見学(フィールドワーク)が歴史学において重要であることを体験する。 ・歴史を遡るということは、どのようなリサーチにも必要なことであり、その根本的な方法を学ぶことで、社会に出る準備としよう。 | | | | | | |
| 到達目標 | ・原始古代から現代までの日本史や群馬県の歴史・文化を中心に学ぶ。 ・先人たちの生き方や考え方を知り、また現在の日本や地域社会やその文化について考える。 ・資料などを読み、それを要約したり、説明する力を養い、卒業論文作成に向けての力をつける。 ・ゼミでの質疑応答によって、自分の意見をきちんと発表し、他人の意見をきちんと聞く力を身につける。 ・知識をただ与えられるのではなく、自ら調べ発見する能力を養う。 ・調べたことを、発表し、文章化する力(社会人になってからも大事な力である)を養う。 ・インターネットには頼ることのできない事柄についてのリサーチの方法を学ぶ。 ・資・史料を適切な手続きを経て使えるようになろう。和漢文を読めるようになろう。 ・史跡見学旅行などで、4年生を含めたゼミ生同士の交流をはかる。 ・以上のことを、4年次の卒業論文作成、さらには卒業後の人生に役立てる。 ・到達目標は、ゼミでの質疑応答、プレゼンなどを通じて、歴史的思考を養い、的確な言葉を持ちいて、自分なりに歴史や文化についての叙述を展開できることである。 | | | | | | |
| 「共愛12の力」との対応 | | | | | | | |
| 識見 | | 自律する力 | | コミュニケーション力 | | 問題に対応する力 | |
| 共生のための知識 | | 自己を理解する力 | | 伝え合う力 | | 分析し、思考する力 ○ | |
| 共生のための態度 ○ | | 自己を抑制する力 ○ | | 協働する力 | | 構想し、実行する力 ○ | |
| グローバル・マインド ○ | | 主体性 ○ | | 関係を構築する力 | | 実践的スキル | |
| 教授法及び課題のフィードバック方法 | | ・テキストを中心に、受講者が司会者の協力のもと分担箇所をレジュメにまとめ(グループワーク)、発表し(プレゼンテーション)、それをもとに全体で質疑討論(ディベート)をおこなう。 ・長期の休みを利用して、4年生と合同で史跡見学旅行(フィールドワーク)を実施する。見学地はグループワークを経てのプレゼンテーションにて決定する。 ・歴史を身近に感じるために、史跡見学会や史跡見学旅行、授業内での史跡見学があり、直接フィールドに出向いて、その史跡の専門家の話を聞いたり、貴重な史料の原本を見せていただいたりもする予定である。 ・卒業論文に向けて、資料をまとめる力・書く力をつけるため、レポートを書く(前期・後期各1～2回程度)。 | | | | | |
| アクティブラーニング | | ○ | サービスラーニング | | 課題解決型学修 | | ○ |
| 受講条件 前提科目 | | 必修。事前に許可された者。 | | | | | |
| アセスメントポリシー及び評価方法 | | 平常点(40%)、ゼミ討論・見学会への参加など授業への取り組みとその姿勢(40%)、レポート(20%)を基準として総合的に評価する。 | | | | | |
| 教材 | | ・テキストは全員で用意する。参考図書も見ておくこと。 | | | | | |
| 参考図書 | | ・『群馬県史 通史編』群馬県、1989～1992年 ・『図説群馬の歴史』河出書房新社、1989年 ・『史料でよみとく群馬の歴史』山川出版社、2007年 ・『群馬県の歴史』山川出版社、1997年 ・『再検証 書き換えられる日本史』小径社、2011年 ・『写真資料館 日本史のアーカイブ』とうほう ・野家啓一『哲学塾 歴史を哲学する』岩波書店、2007年 ・ジョン・H・アーノルド『歴史』岩波書店、2003年 ・『講座日本歴史』岩波書店、2014年・『国史大辞典』吉川弘文館 | | | | | |

| | |
|-----------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・『日本国語大辞典』小学館 ・『日本史大事典』平凡社 ・『日本歴史大事典』小学館・『日本歴史地名大系』平凡社 ・『角川日本地名大辞典』角川書店 <p>*その他の参考文献は授業でも紹介する。</p> |
| 内容・スケジュール | <p>①授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の探し方・まとめ方、史料の読み方、レポートの書き方などを指導する。 ・テキストの輪読をする。毎回、一人の担当者がテーマごとにレジュメを作成、読解とあわせて発表し、全体で討論する。 ・レジュメの作成にあたっては、二人一組となり、グループワークとしてお互いのテーマをサポートしながら、発表報告をつくりあげる。自分およびペアの人の発表前には授業外学習が数時間必要となる。具体的には、わからない語句・歴史用語などを調べる。意味の確認、内容の要約、参考文献の検索および読解、発表のためのレジュメづくりである。 ・調べ学習(語句・用語)には必ず図書館にある『日本国語大辞典』『国史大辞典』、その他参考文献を利用すること。 ・受講者が自分で興味をもったテーマを選んで研究し、発表してもよい。 ・「史料読解」の機会もできれば設ける。前近代の和漢文をテキストとする。 ・歴史を身近に感じるために、史跡見学会や史跡見学旅行、授業内での史跡見学があり、直接フィールドに出向いて、その専門家の話を聞いたり、貴重な史料の原本を見せていただいたりもする予定である。 ・春・夏の史跡見学・旅行の行く先は、いくつかのグループに分かれ、グループワークとして調査し、「プレゼン」によって決定する。 <p>②③授業外学習と目安時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備学習として、テキスト輪読の回は該当テキストを読んでくる。(0.5～3) 発表担当者・司会者は報告のための準備をする。(10) ・振り返りとして、テキストの内容を復習する。(0.5) 発表担当者・司会者は報告において解決できなかった質問や新たに出てきた課題の補足調べをする。(2) ・春・夏の史跡見学・旅行の行く先をグループワークにより調査する。(5) <p>*以上の授業内容は進度・理解度により変更になる場合がある。</p> |

| | | | | | |
|----------------|---|-------------------|----------------------------|---------|---|
| Number | SEM-3-003-ky | Subject | Junior Specialty Seminar I | | |
| Name | 野口 華世(Noguchi Hanayo) | Year and Semester | First semester for 2020 | Credits | 2 |
| Course outline | We will learn the history and the culture of the local society, such as Gunma Prefecture, in association with the history and the culture of Japan as whole.- Through this, we will think about the current situation of the local society, such as Gunma Prefecture, and will think about issues in the future.? | | | | |